

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 曾根東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

#### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

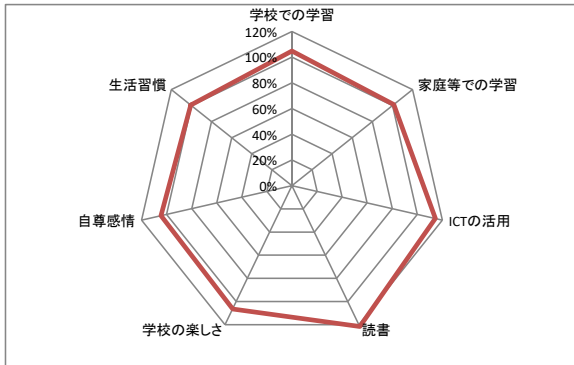
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と同程度である。無回答率は低い。文章を読み、適切なものを選択する問題はよくできている。しかし、記述式の問題の正答率が低い。漢字を正しく書くことにも課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	話合いの様子から発言の理由や説明として適切なものを選択する問題	
	努力が必要な問題	自分の考えや読んだ文章のよさを記述する問題・平仮名を正しい漢字に書き直す問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回った。全体的に無回答率も低い。記述式の問題の無回答率も全国平均に比べて低く、どの領域の問題にも粘り強く取り組むことができています。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	乗法の計算問題・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題	
	努力が必要な問題	割合に関する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均と同程度である。無回答率は低い。どの領域に関しても選択式の問題はよくできているが、記述式の問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	観察や実験から解釈し、正しい結果やまとめを選択する問題・昆虫の体のつくりに関する問題	
	努力が必要な問題	実験器具を答える問題・実験結果を基にその根拠を記述する問題・日光が直進することに関する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・読書量は、全国平均より著しく高い。
- ・学習習慣において、学校の授業以外で1時間以上学習している児童の割合が少ない。全校で取り組んでいる自主学習ノートを今後も継続していく。
- ・ICTの活用において、「ICT機器を使うのは役立つ」の割合が高く、タブレット端末を用いた個別最適化学習や5年生までにICT機器を使って意見交流を行うなどの学習を計画的に実践した成果であると考えられる。
- ・「学校に行くのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」の割合は高い。校区の特徴を生かした本校独自の行事と主題研究とをからめた対話的な学習を展開してきたことや、全教職員が褒め達人となり児童のよさを認め褒め、各学年や学級で互いのよさを認めていくような活動を進めている成果だと考える。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 学力向上に関する職員研修①学力・学習状況調査で明らかになった課題の全教職員による共通理解②スクールプランの見直し
- 学力向上のための特設時間①全校一斉共通課題への取組(読売新聞ワーク)②朝の活動時間(8:40-8:55)の取組[月…読書タイム、木曜…1・3・5週算数タイム 2・4週国語タイム]
- 学習スタイルの共通化…めあて・まとめの提示(整合性を考えて)、ノート形式や振り返りの視点、そねっとケース等についての共通理解
- 理科・外国語科・外国語活動・体育科の専科授業
- タブレット端末を活用した個別最適化学習への取組

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習定着のために
  - ①ソネットノート(自主学習)のさらなる活用を進める。(手本となるノートの紹介や内容の例示、担任以外の教師による評価等)
  - ②宿題のスタンダード化を図る。
- 生活リズムが整った健康的な生活づくり
  - ①学校だよりや保健だより等で過程へ啓発を行う。②夏季・冬季休業日中の生活リズムカードに全校で取り組む。
- 学校が好きな子どもの育成
  - ①児童が主体となり活躍する場の設定②Oのつく日あいさつ運動の継続
  - ③自尊感情を高めるための学年や学級での取組(学級活動、子どもつながりプログラムの活用など)